



当院での無痛分娩について
(抜粋版)

東京慈恵会医科大学附属病院産科・麻酔科 編集

2024年9月

はじめに

- 出産は女性にとって、非常に大切なイベントです。無痛分娩は陣痛による痛みと、赤ちゃんが出てくるときの痛みを効果的に抑えることができ、落ち着いて出産することができます。歴史的には様々な無痛分娩が行われてきましたが、最近では最も一般的な方法として「硬膜外無痛分娩」が行われています。当院では希望される方は「硬膜外無痛分娩」という方法を選ぶことができます。
- 医療行為ですので無痛分娩に伴ういくつかの合併症もあります。そのため当院では母児の安全性を考慮し、医療スタッフが十分対応可能な時間帯として平日の日中に麻酔が終了するように計画分娩によって無痛分娩を行っております。原則として夜間・休日には行っておりません。また無痛分娩をご希望の方でも、計画日より前の陣痛発来や自然破水などの場合は現時点では原則的に無痛分娩の対応はできませんのでご了承ください。また、分娩の進行具合によっては翌日に延期することもあります。その場合、安全を第一に考えて無痛分娩を行えないこともあります。
- 無痛分娩の利点と欠点について十分に理解していただくことが大切です。本冊子で理解を深め、妊婦さんとその周囲の方々が安心して満足できる出産を迎える助けになれば幸いです。

硬膜外麻酔併用無痛分娩とは

硬膜外麻酔は無痛分娩の標準的な方法とされています。出産に伴う子宮収縮や産道の広がりによる痛みは、背中の脊髄という神経を通して脳へ伝えられます。硬膜外麻酔法は、細い管(カテーテル)を脊椎の中の硬膜外腔というスペースに挿入し、そこから麻酔薬を少量ずつ注入することにより出産の痛みを和らげる方法です。陣痛のストレスを緩和することで、分娩中の体力消耗が少なく、分娩後の体力の回復が早くなります。また、陣痛により過度に緊張し産道が硬くなってしまう妊婦さんもいますが、そのような方には産道を柔らかくする効果ももたらします。また、分娩中の血圧の上昇や血糖値の上昇を抑える効果もあり、高血圧や脳動脈瘤などを合併される方に医学的に行うこともあります。

無痛分娩に関する注意事項

- ・当院では無痛分娩を希望される妊婦様に対して、産科麻酔医と協力して無痛管理を行っております。
- ・当院では平日の日中に無痛管理を行っております。それ以外の日時は、原則として自然分娩になります。
- ・妊婦様の安全を確保するために、分娩の進行状況によっては、無痛分娩を希望されていても、無痛管理ができない場合がございますのでご了承ください。

おわりに

出産は女性やご家族にとってとても大切なイベントで、どのような出産を目指すのかは、ご本人とご家族が説明を聞いて分娩方法を選択することが大切です。硬膜外無痛分娩が自然分娩と対比されるものではなく、分娩の自然の経過を手助けするものだということをご理解頂き、選択肢の一つとしてお考えいただければ幸いです。

そして、何よりも安全を担保するために何よりも大事なことは、みなさまと医療者とのコミュニケーションです。痛みはあくまでも主観になります。ご自身しかわかりません。そして、疑問点や不安に関してお伝えいただくことで、それに即した対応が可能になることも多々あります。これまで記しました内容や産科麻酔外来の時間で不安のないよう無痛分娩に関して理解をいただき、ともに貴重な、そしてより安全な出産の経験を共有できますことを心より願っております。

よくある Q&A

Q. お産への影響はありますか？

・分娩時間への影響

いくつもの研究を併せて分析した報告によると、硬膜外麻酔を受けた方は、点滴から鎮痛薬を投与された方と比べて、分娩第Ⅰ期（陣痛が開始して子宮口が全開大となるまでの期間）は長くないことが示されましたが、分娩第Ⅱ期（子宮口が全開大してから分娩するまでの期間）は長くなりました。分娩第Ⅱ期が1時間長くなることは許容されるとしています。赤ちゃんが元気で産道を降りてきており、お母さんの痛みが十分取れているのであれば、分娩第Ⅱ期がある程度延長することは問題ないと考えられています。

・吸引分娩・鉗子分娩への影響

鉗子や吸引は、子宮口が開ききってからの時間が著しく長い場合、お母さんの血圧が高い場合、赤ちゃんが産道を降りてくるときの進み方に問題がある場合など、赤ちゃんが産道を進んでくることを助ける目的で使用されます。硬膜外麻酔を受けた妊婦さんでは、吸引や鉗子を使うことが多くなることがわかっています。

・帝王切開率への影響

全分娩に対する帝王切開による出産の割合は 20%弱とされています。これまでの研究を分析した限りでは、硬膜外麻酔を受けても帝王切開となる率が高くないという結果が出ています。しかし、帝王切開となる率を高めたという報告もあり、完全な意見の一致には至っていません。

Q. 赤ちゃんに影響はありますか？

当院の無痛分娩は局所麻酔で行っており、使用する局所麻酔薬の量も非常に少ないので、赤ちゃんへの影響はとて小さいですが、稀に薬の影響で元気がなくなることがあります。しかし、出生後の処置によって回復します。無痛分娩によってお母さんの血圧が下がったりした場合は、赤ちゃんにも影響が及ぶことが考えられますが、血圧が低下した時には点滴を増やすなど適切に管理すれば、赤ちゃんの状態が悪くなることはないと考えます。無痛分娩でなくても、赤ちゃんの娩出にお手伝いが必要になれば、鉗子分娩や吸引分娩を行いますが、無痛分娩ではその可能性が高くなります。

Q. 無痛分娩中の制限はありますか？

- ・ 飲食：誤嚥性肺炎の危険性を減らすために、食事は入院当日夕食まで。

入院当日 21 時以降および誘発分娩当日は朝から食べることはできません。 飲水に関しては、誘発分娩当日は水またはお茶に限り原則自由にできますが、硬膜外麻酔を開始する直前や薬剤使用後指示があるまでは控えていただきます。また、子宮口全開大してから出産後 2 時間までは原則飲食禁止となります。分娩進行の具合から緊急帝王切開術を行う可能性が高い場合にも安全のため水分摂取を控えて頂くようお願いすることがありますのでご了承ください。

- ・ 歩行：麻酔による運動神経麻痺により転倒する危険がありますので、麻酔開始後は歩行できません。

- ・ 排尿：歩行できないため、排尿は看護スタッフがベッド上で細い管を尿道へ入れて人工的に排尿するのをお手伝いします。

- ・ 麻酔開始直後は麻酔の効果をより高めるため、基本的に仰向けの体勢をとって頂きます（仰向けの体勢が合わない場合は、ご相談ください）。その後はベッド上にはなりますが、特に制限はありません。ただし、点滴などのたくさんの管がついていますので、看護師・助産師と協力して快適に過ごせるよう配慮いたします。